

ナス タバコガ類について



図1 オオタバコガの雌と雄



図2 オオタバコガの幼虫とナスへの食害



図3 オオタバコガのPTと
誘殺されたオオタバコガ(右上)

1 生態

ナスを加害する主な種はオオタバコガとタバコガである。被害は、幼虫による若葉・果実・花・蕾等の食害である。タバコガ類はチョウ目害虫であり、ヨトウ類の幼虫と間違えやすいが、産卵数は1回の産卵に1個かどうかである・幼虫の腹脚数・ハスモンヨトウの幼虫の特徴である頭部後ろの黒斑紋ではない・黒点と体毛の有無等により区別できる。また、果実への食害では、ナメクジの被害と間違えやすいが、食痕の周囲に糞があればタバコガ類によるものである。本虫は卵または温暖なところでは蛹の状態では場周辺雑草地の土中で越冬する。春先に羽化した成虫は若葉、蕾のがく、果実等に産卵する。卵は約0.4mm、黄緑色である。3日程度で孵化後、5回脱皮を行い、6齢幼虫が土中で蛹化する。老齢幼虫はオオタバコガは4cmになる。タバコガは9月以降、岐阜県では蛹で休眠に入るため、羽化しない。卵から羽化までの期間は平均気温20℃で約60日、25℃では約35日、30℃では約25日と言われ、本県では年間4～5世代が発生する。

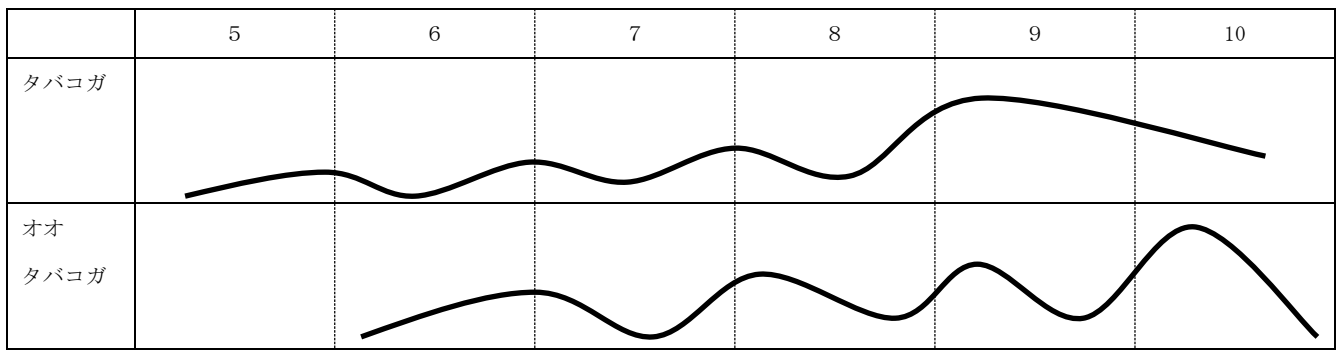


図1 タバコガ類フェロモントラップへの誘殺数の推移(P T設置場所：恵那市東野)

2 発生状況

恵那市東野に設置したフェロモントラップへの誘殺はタバコガは5月上旬から、オオタバコガは6月上旬から認められる。7月中旬から急激に誘殺数が増加し、タバコガは9月、オオタバコガは10月にピークを迎える。ほ場では6月頃から、産卵が確認される。産卵後約5日後には若齢幼虫が見られ、果実や葉への食害による被害が確認される。

気象による影響が大きく、降雨が多い年や低温の年になると発生は抑制される。

3 防除対策

(1) 物理的防除

ほ場内や周辺の雑草等に飛来し、増殖をするため、ほ場内及び周辺雑草は除去する。

収穫時に食入痕や食害を見つけたら、若葉、蕾のがく、果実等にいるタバコガ類を捕殺する。

(2) 薬剤防除

中齢以降の幼虫は薬剤がききにくく、果実内に深く食入すると薬剤がかかりにくくなるため、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。薬剤散布の目安はほ場で卵が散見された約5～7日後である。散布ムラがないように丁寧に行う。また、タバコガ類は薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。